



I 第 31 週の発生動向 (2025/7/28~2025/8/3)

1. 百日咳については、複数の保健所管内で患者が報告されており、特に中南保健所管内の報告数が多くなっています。手洗い等の基本的な感染対策の徹底をお願いします。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「蚊媒介感染症」です。

最終ページに掲載しています。

II 第 31 週五類定点把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

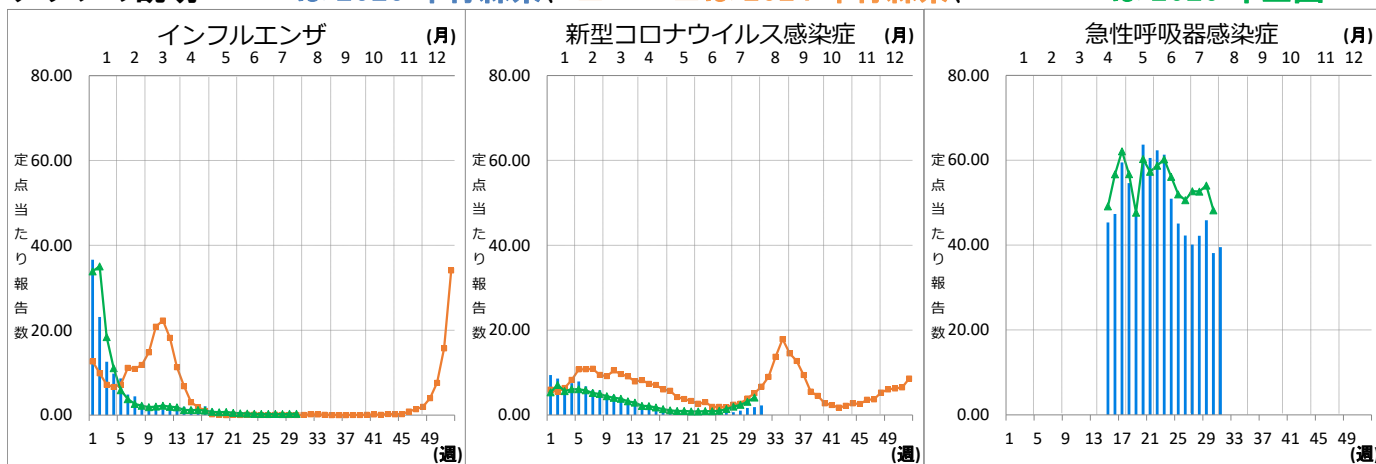
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

は警報、は注意報。「空欄」：患者報告無し。

		東青 (東津軽+ 青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+ 八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週 からの 増減
		数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
急性 呼吸器 感染症	インフルエンザ	5	0.45			1	0.10			1	0.11	9	1.50	16	0.31	9
	新型コロナウイルス感染症	13	1.18	13	1.30	35	3.50	21	3.50	30	3.33	6	1.00	118	2.27	22
	急性呼吸器感染症	569	51.73	295	29.50	366	36.60	271	45.17	334	37.11	220	36.67	2055	39.52	73
小児科	RSウイルス感染症															-3
	咽頭結膜熱	1	0.17	3	0.50	3	0.43	2	0.40			1	0.25	10	0.29	5
	A群溶血性レンガ球菌咽頭炎	3	0.50	3	0.50	7	1.00	4	0.80			5	1.25	22	0.65	6
	感染性胃腸炎	13	2.17	8	1.33	44	6.29	12	2.40	3	0.50			80	2.35	12
	水痘			3	0.50	6	0.86			2	0.33			11	0.32	5
	手足口病			4	0.67							2	0.50	6	0.18	1
	伝染性紅斑			1	0.17	6	0.86	1	0.20					8	0.24	1
	突発性発しん			2	0.33	1	0.14	2	0.40	2	0.33			7	0.21	-12
	ヘルパンギーナ	2	0.33	3	0.50	1	0.14	2	0.40	3	0.50	2	0.50	13	0.38	5
	流行性耳下腺炎							1	0.20					1	0.03	0
眼科	急性出血性結膜炎															0
	流行性角結膜炎															0
基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0
	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															0
	マイコプラズマ肺炎	3	3.00	1	1.00	1	1.00					6	6.00	11	1.83	3
	無菌性髄膜炎					3	3.00							3	0.50	3

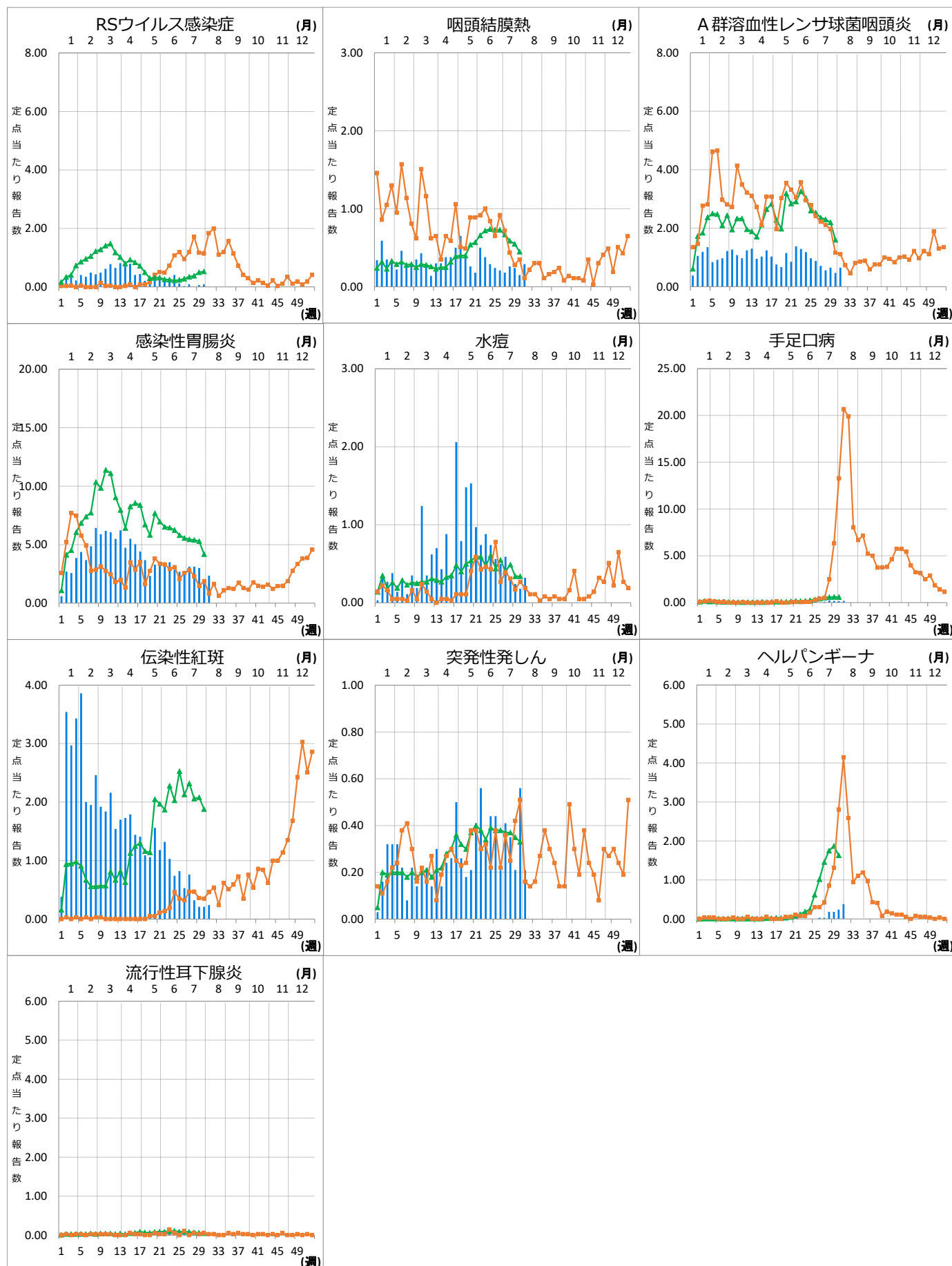
III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2025 年第 31 週、ただし全国は前週)

グラフの説明 〓は 2025 年青森県、■は 2024 年青森県、▲は 2025 年全国



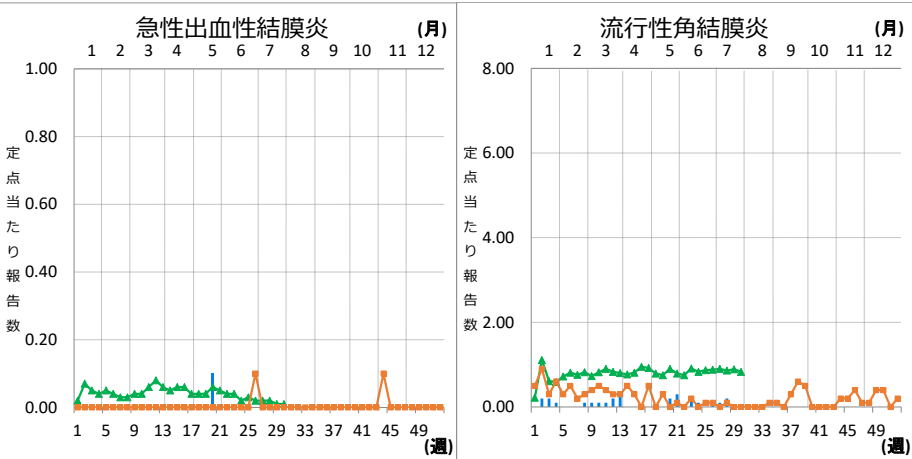
Ⅳ 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2025 年第 31 週、ただし全国は前週）

グラフの説明  —■— は 2025 年青森県、■—■ は 2024 年青森県、▲—▲ は 2025 年全国



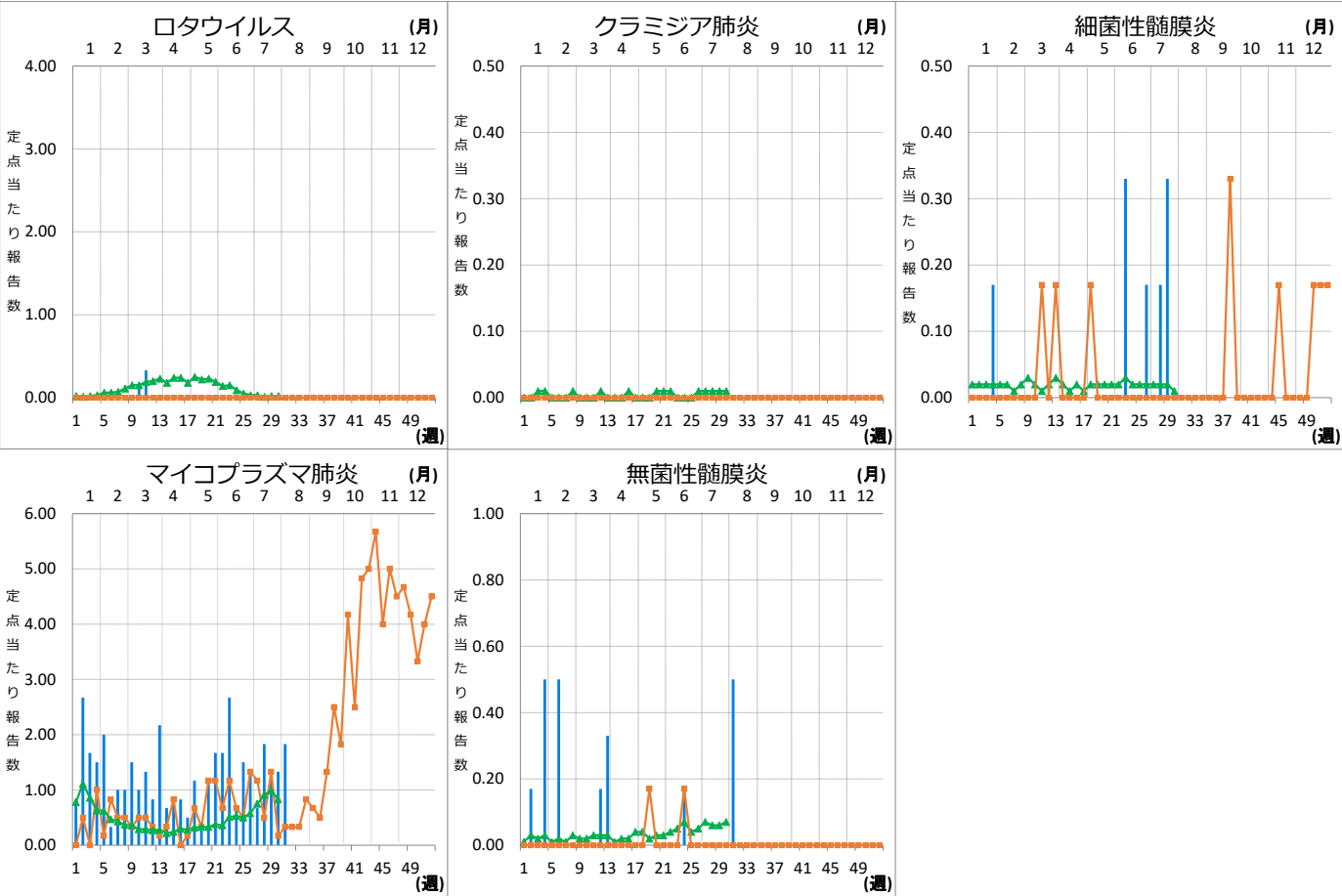
V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2025 年第 31 週、ただし全国は前週）

グラフの説明👉**——は 2025 年青森県、■——■は 2024 年青森県、▲——▲は 2025 年全国**



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2025 年第 31 週、ただし全国は前週）

グラフの説明👉**——は 2025 年青森県、■——■は 2024 年青森県、▲——▲は 2025 年全国**



Ⅶ 急性呼吸器感染症 (ARI) 病原体検出情報

(1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2025 年第 24～31 週)

急性呼吸器感染症	2025年							
	24週	25週	26週	27週	28週	29週	30週	31週
提出検体数	10	8	9	10	7	8	9	6
インフルエンザウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	
インフルエンザウイルスB	0	0	0	0	0	0	0	
SARS-CoV-2	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルスB	0	0	0	0	0	1	0	
ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	0	0	1	0	
パラインフルエンザウイルス3	2	2	0	1	0	0	1	
パラインフルエンザウイルス4	0	0	0	0	1	1	2	
ライノ/エンテロウイルス	5	3	2	4	4	3	1	
アデノウイルス	1	0	2	1	0	0	0	
不検出	2	3	6	5	3	3	5	
検査待ち	0	0	0	0	0	0	0	6

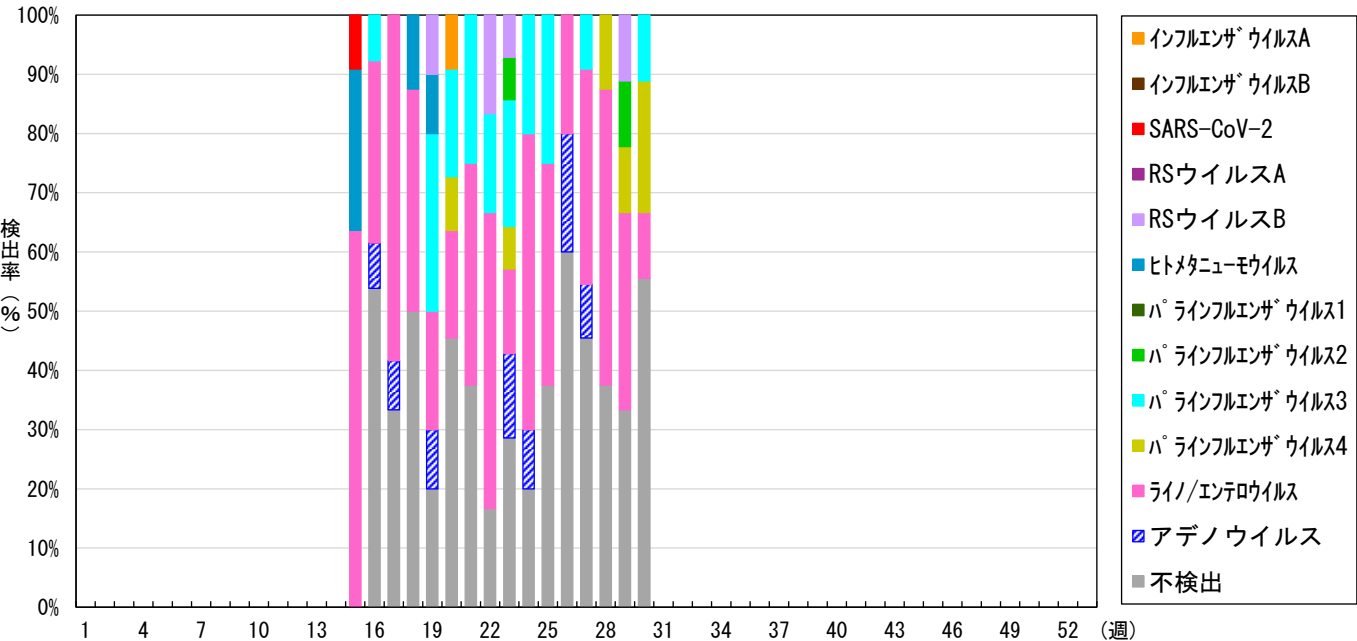
※第26週に提出された検体のうち、ライノ/エンテロウイルス及びアデノウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第27週に提出された検体のうち、ライノ/エンテロウイルス及びアデノウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第28週に提出された検体のうち、ヒトパラインフルエンザ4及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました

※第29週に提出された検体のうち、RSウイルスB及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました

(2) 検出された病原体の週別推移 (2025 年第 15 週～)



Ⅷ 全数把握対象疾患発生状況（第 31 週）

- ・腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）：中南 2 人、上北 1 人、下北 1 人（2025 年計： 19 人）
- ・百日咳（五類感染症）：中南 9 人、八戸市 6 人、上北 3 人、三戸 1 人（2025 年計： 617 人）

Ⅸ 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2025 年第 28 週～2025 年第 31 週）

週	東青 （東津軽保健所+ 青森市保健所）	中南 （中南保健所）	三八 （三戸保健所+ 八戸市保健所）	西北 （西北保健所）	上北 （上北保健所）	下北 （下北保健所）
28	梅毒1人 百日咳1人	梅毒1人 百日咳11人	破傷風1人 百日咳6人	結核2人 百日咳1人	腸管出血性大腸菌感 染症1人	
29	結核1人 腸管出血性大腸菌感 染症1人 レジオネラ症1人 百日咳3人	百日咳23人	腸管出血性大腸菌感 染症1人 百日咳9人	百日咳2人	結核1人 梅毒1人 百日咳1人	
30	結核1人 腸管出血性大腸菌感 染症2人 百日咳1人	結核1人 腸管出血性大腸菌感 染症1人 梅毒1人 百日咳11人	百日咳5人	百日咳2人	百日咳2人	
31		腸管出血性大腸菌感 染症2人 百日咳9人	百日咳7人		腸管出血性大腸菌感 染症1人 百日咳3人	腸管出血性大腸菌感 染症1人

第 30 週に西北保健所管内で百日咳の届出が 1 件ありましたので追加しました。

X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2025 年第 1 週～第 30 週までの累計）

分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокクス症	エムボックス
累積報告数	7888	3	29	1500	18	3	348	79	21	3
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	オウム病	回帰熱	コクシジオイデス症	重症熱性血小板減少症候群	ダニ媒介脳炎	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	ブルセラ症
累積報告数	8	5	4	120	2	11	98	83	289	1
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類
疾病名	ボツリヌス症	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺
累積報告数	1	15	9	1	1268	4	268	139	762	14
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）
累積報告数	325	16	96	876	481	20	438	57	2427	402
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症		
累積報告数	7993	96	46	56	56664	8	191	4		

青森県（2025 年第 1 週～第 31 週までの累計）

分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	つつが虫病	日本紅斑熱	レジオネラ症	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病
累積報告数	66	19	1	13	1	6	1	6	1	3
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	梅毒	破傷風	百日咳			
累積報告数	5	1	3	14	15	1	617			

XI 病原体検出情報 ※（ ）内は、検査材料及び検体採取日

E 型肝炎患者（血清、6/2）・・・E 型肝炎ウイルス 3 型：八戸市 1 人

Ⅻ 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2025 年第 31 週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第31週	報告なし		

2025 年報告件数及び発症者数

月(週)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月					8月	9月	10月	11月	12月	計
施設種別		1-5週	6-9週	10-13週	14-17週	18-22週	23-26週	27週	28週	29週	30週	31週	32-35週	36-39週	40-44週	45-48週	49-52週	(施設別)
介護・老人福祉関係施設	件数	1	4	4	4	1	0	0	0	0	0	0						14
	発症者数	7	70	69	78	11	0	0	0	0	0	0						235
児童・婦人関係施設等	件数	4	10	8	7	1	3	0	0	0	1	0						34
	発症者数	74	228	136	128	25	50	0	0	0	22	0						663
障がい関係施設	件数	0	2	2	1	1	0	0	1	0	0	0						7
	発症者数	0	37	25	10	5	0	0	11	0	0	0						88
その他施設	件数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0						1
	発症者数	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0						10
計(月別)	件数	5	16	14	12	3	4	2										56
	発症者数	81	335	230	216	41	60	33										996

感染症の窓

蚊媒介感染症

蚊媒介感染症とは、病原体を保有する蚊に刺されることによって起こる感染症のことです。主な蚊媒介感染症には、ウイルス疾患であるデング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症、日本脳炎、原虫疾患であるマラリアなどがあります。

2025 年第 30 週現在、日本国内で報告されている蚊媒介感染症は、デング熱、チクングニア熱、マラリアです。

デング熱については、2014 年に国内感染例が報告されていますが、蚊媒介感染症の多くは海外からの輸入感染症で、主に熱帯や亜熱帯地域で流行しています。流行地に渡航する際には十分な注意が必要です。

治療については、マラリアは抗マラリア薬を投与しますが、デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症、日本脳炎は対症療法が中心となります。

予防については、蚊に刺されないための対策が重要です。屋外の蚊が多くいる場所で活動する場合は、長袖、長ズボンなど肌の露出が少ない服装にし、虫除け剤を使用しましょう。

また、帰国後に症状があらわれた場合は医療機関を受診し、海外への渡航歴を申し出るようにしてください。

○詳しい情報はこちらをご覧ください。

☞蚊媒介感染症(厚生労働省 HP)



厚生労働省

ジカ熱・デング熱対策

感染症の運び屋 蚊から

バリアで身を守れ!!!

- やぶなどの蚊がいそうな場所に行くときは、肌を露出せず、虫除けスプレーを使用するなど、蚊に刺されないように注意しましょう!
- ジカ熱やデング熱の流行地に渡航する場合は、現地でも蚊に刺されないように注意しましょう!

虫除け剤でバリア

虫除け剤を使いましょう

服でバリア

出かけるときは肌の露出が
少ない服装にしましょう

●なぜ対策が必要?
ジカ熱やデング熱は蚊を介して感染します。原因となるウイルスは、感染した人の血を吸った蚊(日本ではヒトスジシマカ)の体内で増え、その蚊がまた他の人の血を吸うときにウイルスを移し、感染を広げていきます。

●ジカ熱やデング熱に感染するとどうなる?
感染しても全ての人に症状が出るわけではありませんが、発熱や関節の痛み、発疹が出るといった症状が1週間ほど出ます。また、ジカ熱は妊婦が感染すると小児性麻痺をもった子どもが生まれたり、デング熱では出血を伴うデング出血熱となり重症化することがあります。

【ヒトスジシマカ】
蚊科に属する吸血性昆虫。体長は2-3mm程度で、全長が約1.5cm程度に達する。雄は褐色、雌は黒褐色。雌は吸血し、産卵のために吸血する。吸血後には10-15分程度を要する。

ジカ熱・デング熱に関する詳しい情報は厚生労働省のHPをご覧ください。

ジカ熱 厚生省 検索

デング熱 厚生省 検索